



群鶴(其二)
大正13年(1924) 個人蔵 ※前期のみ



群鶴(其一)
大正13年(1924) 個人蔵 ※前期のみ

会期中のイベント

■講演会「木村武山が描いた芸術と宗教 —岡倉天心の教えのもとで—」

当館館長が木村武山とその作品の魅力に迫ります。

講師：小泉 晋弥(茨城県天心記念五浦美術館長)

日時：3月1日(日) 午後1時30分～(約90分)

会場：講堂

定員：114名 ※要企画展入場券(半券可)、当日先着順、申込不要

■ワークショップ「武山の描いた仏画を写仏する」

武山作品の一部を紺地の紙に金色で写仏します。

日時：3月7日(土) 午前10時～、午後1時30分～

会場：講座室

定員：各回20名程度 ※要企画展入場券(半券可)、当日先着順、申込不要

■ギャラリートーク

展覧会担当者が作品解説を行います。

日時：2月21日(土)、4月5日(日) 午後1時20分～(約40分)

会場：展示室A ※要企画展当日入場券、申込不要

■映画会(五浦名画座)

「海外特派員」(1940年/120分/モノクロ/アメリカ)

日時：3月8日(日) 午前9時45分～、午後1時30分～

会場：講堂

定員：各回114名 ※無料、当日受付先着順、全席自由

※各イベントは日時、内容等変更になる場合があります。

ごいっしょに

■講演会「木村武山が描いた芸術と宗教 岡倉天心の教えのもとで」

講師：小泉 晋弥(茨城県天心記念五浦美術館長)

日時：2月15日(日) 午後1時30分～(約90分)

会場：笠間市立笠間公民館 2階大・中会議室(笠間市石井2068番地1)

主催：笠間市教育委員会

TEL.0296-77-1101(笠間市生涯学習課)

■木村武山「小春」大正3(1914)年を展示

会期：2月17日(火)～2月20日(金)

会場：茨城大学図書館本館1階展示室

主催：茨城大学五浦美術文化研究所

TEL.029-228-8425(茨城大学社会連携課)

■木村武山「須磨御殿杉戸絵」大正7～8年頃(c.1918-19)を展示

会期：2月19日(木)～4月5日(日)

会場：茨城県近代美術館所蔵作品展示室

■「藤田嗣治 絵画と写真」

2月10日(火)～4月12日(日) 茨城県近代美術館 TEL.029-243-5111



大日堂全景



木造大日如来坐像 厨子 昭和初期
笠間市教育委員会蔵

大日堂とは

武山が母の供養のために郷里笠間に建立した大日堂。

本展では、普段は大日堂内に安置されている厨子と大日如来坐像を全期間特別展示いたします。



当館次回企画展のご案内

「関彰商事コレクション 斎藤清のバリ そして日本」

4月26日(日)～7月12日(日)

【美術館共通年間パスポートのご案内】

茨城県立の美術館(近代美術館、天心記念五浦美術館、陶芸美術館)が主催する全ての展覧会で何でも利用いただける共通年間パスポート(一般 3,550円/高校生 2,370円/小中学生 1,180円、購入日から1年間有効)を各美術館にて販売中。



生誕150年記念

木村 武山展

2026年
前期 2月11日(水・祝)～3月22日(日)
後期 3月24日(火)～4月19日(日)

※絵画は全点展示替え

開館時間：午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)

休館日：毎週月曜日 ※ただし2月23日(月・祝)は開館。2月24日(火)は休館

入場料：一般 360(290)円/満70歳以上 180(140)円

高校生 240(170)円/小中生 170(110)円

※()内は、20名以上の団体料金

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳又は指定難病特定医療費受給者証等をご持参の方および付き添いの方1名は無料

※土曜日は高校生以下無料(春休み期間中は除く) ※3月14日(土)は満70歳以上の方は無料

主催：天心記念五浦美術館 生誕150年記念木村武山展地域連携実行委員会

会場：展示室A

茨城県天心記念五浦美術館

TENSHIN MEMORIAL MUSEUM OF ART, IBARAKI

〒319-1703 茨城県北茨城市大津町椿2083 Tel. 0293-46-5311 Fax. 0293-46-5711



祇王祇女
明治41年(1908) 永青文庫蔵 ※後期のみ

生誕150年記念

木村武山展

木村武山(1876-1942)は現在の茨城県笠間市出身の日本画家です。東京美術学校時代には岡倉天心の薫陶を受け、日本美術院創立にも副員として参加しました。明治39(1906)年、天心が苦境にあった日本美術院第1部(絵画)の茨城県五浦移転を執行した際には、横山大観、下村観山、菱田春草の3人の先輩と共に家族を引き連れて五浦に移住しました。以後、武山はその生涯を近代日本画の発展に捧げ、歴史画、花鳥画、仏画など幅広いテーマで作品を残しました。現在、武山の作品は、美術館・博物館のみならず多くが個人によって所蔵されています。

本展は、木村武山の生誕150年を記念し、県内外の美術館のほか、個人所蔵家の協力を得て開催されます。代表作に加え、これまであまり出品されてこなかった作品、長年、所在が不明となっていた作品など、優品約60点を前期・後期に分けてテーマごとに紹介します。特に「仏画の武山」と称され、新境地を開いた後半生の仏画作品には、武山の深い信仰心と高い技量が表れており、今もなお見る人に深い感銘を与えています。本展では、武山にとっての仏画の意義を再考し、武山芸術の集大成ともいえる笠間大日堂に安置されている厨子を特別展示として公開します。

前期

2月11日(水・祝)～3月22日(日)



武神
昭和11年(1936) 個人蔵



陶淵明
大正2年頃(c.1913) 個人蔵



花鳥十題の内 雨中の柿
大正9年(1920) 個人蔵



花鳥十題の内 白菊
大正9年(1920) 個人蔵

後期

3月24日(火)～4月19日(日)



観世音寺炎上之図
昭和9年(1934) 横浜美術館蔵



聖観世音菩薩
昭和10～12年頃(c.1935-37) 個人蔵

みどころ

- 新発見の作品、県内美術館初出品の作品を公開
- 説話・物語、花鳥風月、仏画の3つのテーマにわけて展示
- 武山芸術の集大成、大日堂に安置されている厨子と大日如来坐像を会期を通して特別展示



春暖 古面蘭陵王
昭和7年～10年頃(c.1932-35) 個人蔵



高倉帝厳島行幸
明治29年(1896) 東京藝術大学蔵



秋草図屏風
大正5～6年頃(c.1916-17) 個人蔵